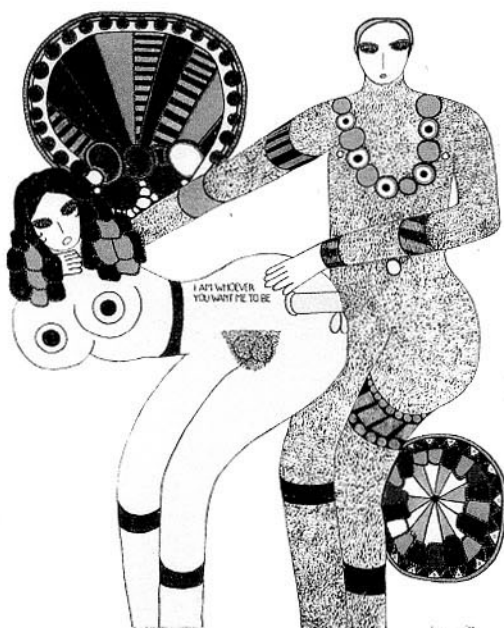


美術手帖

2009.09
vol.61 NO.927
http://www.bijutsu.co.jp/bss/



左—貴方好みの私 1970
キャンバスにアクリル絵具、コラージュ
190×150cm Courtesy Anton Kern
Gallery, New York, and Air de Paris
右上—アンコール 2007
板にガッシュ 54.8×64.9cm
Courtesy Anton Kern Gallery, New York
右下—人々 1966-67
木片に紙、フェルトペン 各36×21×2cm
スードで糸を縫い、ベニスや糸部を強調
するのがアイアンローネ流。大型絵画に移行する
前の木片に描かれた人物像
Courtesy Anton Kern Gallery, New York,
and Air de Paris

No.013

Dorothy Iannone

ドロシー・イアンローネ (b.1933; Boston, USA)

今年76歳を迎えるベルリン拠点のアーティスト、ドロシー・イアンローネ。数十年來、トレードマークの男女性愛の図は、性器の部分をテープで隠蔽するよう要求された展示拒否にあってりと物語を醸し、イラストレーション的な作風は、フォーク・アートのようなと無視されてきた。そのアートが近年、若い世代のキュレーターたちの注目を受けて、テート・モダンで個展が開かれ、ベルリン・ビエンナーレに登場するように。この夏は、故国アメリカでは初となる美術館での個展がニューヨークのニュー・ミュージアムで開催中だ。

イアンローネは1950年代後半、抽象表現主義の作家としてキャリアをスタート。同じく画家の夫とヨーロッパを旅行中の67年、訪れたアイスランドでスイスのアーティスト、ディーター・ロートに出会い、一目惚れ。帰国した翌日、夫に別れを告げ、再びアイスランドへ。この風雲児ロートとの蜜月が、愛の讃歌

たるアートを形成することとなった。ドイツを中心に2人で各地の展覧会に参加。しかし、7年後には、単身南フランスへ。この頃制作したオナー・ビデオ《貴方を想って》は、ヴィト・アコンチの自慰パフォーマンス《苗床》(1972)に匹敵するものと、近年再び注目が、イラスト本『アイスランド叙事詩』の出版など、多彩なメディアを試み、76年以降はベルリンを拠点に制作を続けてきた。

彼女が今注目されるのは、装飾的でアウトサイダー的なものにオープンになった時代の動きがあるのももちろんだが、マチスやレジェ、インドのカーマ・スートラや古代エジプトの壁面を思わせる豊かなイコノグラフィに、見る者の目が開かれたということだろうか。単純に男女の性愛を謳うというより、宝塚の男役にも通ずるフェミニンな男とパワフルな女の交歓がその真骨頂。「男は女のミュージック」をモットーに我が道を邁進してきた。その実践は何とも小気味よい。

ARTIST in Focus

今月の
ワールドスター

藤森愛実=文
Text by Manami Fujimori

個展「ドロシー・イアンローネ：暮らしのニュー・ミュージアム」がニューヨークのニュー・ミュージアムで開催中。祖国アメリカで40年ぶりの回顧展。10月18日まで。

併せて近作展もニューヨーク、チェルシーのアントン・カーン画廊で開催中(8月22日まで)。

120